



ビジョン 2014

Education Activity Plan 持続可能なスウェーデン協会

バルブロ・カッラ来日、2006年6月5日－13日 東京、北海道

スウェーデンにおいて、持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable development, ESD)の普及に向けて活躍している Barbro Kalla(バルブロ・カッラ)氏が来日します。これまでの「持続可能なスウェーデン・ツアー」を企画する経験を踏まえ、「教育」に焦点をあて、日本とスウェーデンとの学びの交流を広げていくためのファーストステップです。

背景

国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)

国連持続可能な開発のための教育の10年(UN Decade of Education for Sustainable Development, UNDESD, 2005年-2014年)では、国や地域によって様々な状況にある学校、企業、自治体、その他の現場においてESDを実施します。

国連持続可能な開発のための教育の10年(DESD)の目標

DESDの目標は、全ての教育・学習活動に、持続可能な開発の原則、価値、そして実践を統合することです。この取組みは、人々の行動を変え、持続可能な世界を創造することを促します。

日本

DESD は、2002年のヨハネスブルグサミットにおいて、日本政府とNGOの協力により提唱されました。

スウェーデン

スウェーデンは、2004年5月4日から7日に、ヨーテボリ市において“われわれの世界を変える学び; ESDに関する国際専門家会議”を開催し、DESDのイニシアティブをサポートしました。

持続可能なスウェーデン協会(SSA)

持続可能なスウェーデン協会(Sustainable Sweden Association, SSA)は、2002年以来、日本人参加者がスウェーデンを訪問する学習ツアーを開催しています。ツアーにおける学びの交流から、両国の組織や参加者は、持続可能な社会への変革過程において、「教育」が重要であることを理解してきました。教育は成功につながる一つの鍵なのです。



ビジョン 2014

Education Activity Plan 持続可能なスウェーデン協会

私たちのねらい

貢献: DESD の成果のために

持続可能なスウェーデン協会 (Sustainable Sweden Association) は、4 年間にわたり、日本との学びの交流を築いてきました。その経験をもって、2005 年に始まった持続可能な開発のための教育の 10 年を、日本、スウェーデン両国で成功させるためにどのような貢献ができるかを考えました。私たちは、日本とスウェーデンとの対話を導いてきた経験をもって、その対話を発展させて、両国の持続可能な開発のための教育 (ESD) の成果に貢献することを目指しています。

私たちの願い

2014 年、DESD が終わりを迎えるとき、DESD の提唱者である日本は、国連、世界そして日本の市民に対してどのような成果報告をするのでしょうか。私たちは日本が自信と誇りを持ち、大きな前向きな成果を報告できることを望んでいます。そして、そのような成果は、国際社会、日本の市民は歓迎し高く評価する貢献となるでしょう。

スウェーデンも同様に持続可能性達成に向けて取り組みを進め、教育を重要なツールの一つとして活用しています。スウェーデンは一般的にこの分野において進んでいる国として知られています。両国は、現在違う取組み段階にありますが、共に進むべき道のりは長いといえます。私たちはスウェーデンと日本が協働することで、互いに助け合えると確信しています。言語と文化のギャップに橋をかけ、2014 年に向けて両国が前に進むための創造的な対話を促し、刺激したいと考えています。2014 年、日本、スウェーデン両国が、それぞれの成果を誇り、喜びあえることを願っています。

ウーメオ市(Umeå), April 7, 2006

Barbro Kalla

(バルブロ・カッラ)

持続可能なスウェーデン協会

コーディネーター

教育プロジェクト

プロジェクト・マネージャー

「持続可能なスウェーデン・ツアー」

Lena Lindahl

(レーナ・リンダル)

持続可能なスウェーデン協会

日本代表

Umeå

Contact: barbro@esam.se

Tokyo

Contact: llindahl@igc.org